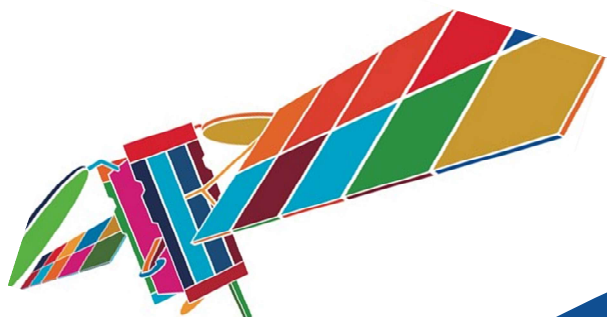





サステナビリティブックレット

「宇宙実業社」だから解決できること



 いつでもどこでもずっとつながる

災害に強く、地上回線未整備エリアでも“つながる”衛星通信で 人命・経済・暮らしを支える

地球から離れた宇宙空間にある人工衛星で、災害時に地上通信インフラが被災したとき、
そもそも未整備な山間僻地や離島でも通信を行うことができます。



▷ 災害現場からの
緊急通信

▷ 公共交通機関の
安全運行をサポート

▷ 山間部や離島など
どこでも繋がる

▷ 機動力のある
ネットワーク

これで解決！ 衛星通信を活用した防災、減災

スカパーJ SATは、静止軌道衛星から低軌道衛星やHAPS（高高度プラットフォーム）
まで、あらゆる“SPACE”を使って防災、減災、災害復興に向けた通信をサポートします。



衛星は太陽光発電を利用！お客様の環境対応へも貢献

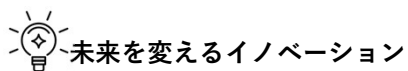
衛星通信は、宇宙で作られる太陽光発電と地上機器を
含む効率的な電力利用により、地上回線に比べて
約3分の1の消費電力*で通信が可能です。（*当社調査による）

また、衛星管制センターを含む当社グループの各拠点では、
使用電力を実質再生可能エネルギーに切り替えを進め、
脱炭素社会の実現に向け2025年度までにScope1、2*の
カーボンニュートラル達成を目標として
掲げました。

（*Scope1: 自社での直接排出、Scope2: 供給されたエネルギー利用に伴う間接排出）

これらの拠点を活用したサービス提供により、
当社グループのCO2排出削減だけでなく、お客様の
持続可能性への貢献も目指しています。





衛星データとAI分析により**災害・事故のリスクを可視化し、能動的な減災対策へ**

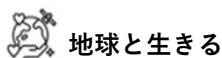
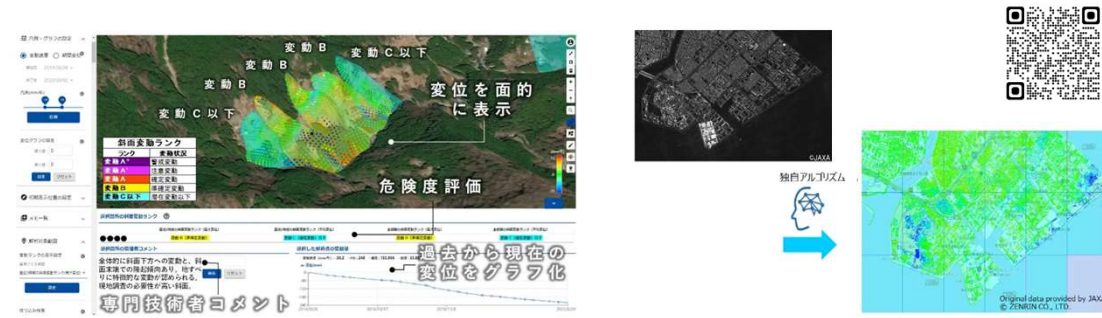
斜面やインフラの変動を細かに把握ができ、気候変動によって激化が予想される自然災害、インフラの老朽化に対する予防保全が可能となります。



- ▷ 盛土造成地の変動を監視し、適切な維持管理へ。
- ▷ 老朽化する設備の状態を知る。
- ▷ 工事による周辺施設への影響を確認する。
- ▷ 埋め立て地の沈下状況を把握する。

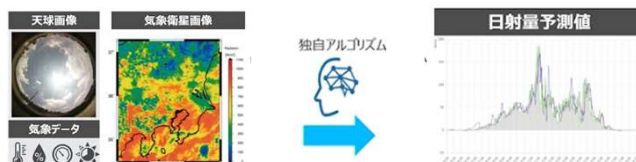
これで解決！ LIANA (Land deformation and Infrastructure ANALYSIS)

LIANA (リアーナ) は、衛星データを当社独自のアルゴリズムで解析し、数ミリ～数センチメートルの精度で斜面やインフラの変動を把握するモニタリングサービスです。地盤変動推移を時系列で閲覧したり、エリアごとの危険性を確認することができます。



再生可能エネルギーが主力となる世界を目指す 日射量予測を通じた太陽光発電の有効活用をサポート

雲の動きを把握し、太陽から降りそそぐ日射量や、どれくらい太陽光で発電できるかを予測することで、他の電量とのバランス調整の効率化向上、余剰電力低減へつな갑니다。



これで解決！ Solar Meilleur (そらみえーる)

そらみえーるは、日射量／発電出力予測と太陽光発電所の気象モニタリングサービスです。天球画像とひまわりの気象衛星画像を、当社独自開発の解析システムにより5分後から3日後までの日射量を予測します。



9つの重要課題テーマ

スカパーJSATは、宇宙とメディアというユニークな事業を両輪としており、9つの重要課題テーマに取り組んでいます。

当社がもつアセットを活かし、あらゆるステークホルダーの皆さまと連携させていただきながら、地球・宇宙のサステナビリティに貢献していきます。



宇宙事業

メディア事業



いつでもどこでも
ずっとつながる



ココロ動く、
未来へ



地球と生きる



クリーンな
宇宙に



未来を変える
イノベーション



パートナーシップ



正しく
しなやかな経営



一人ひとりが
活躍できる会社



次世代のため
地域のため



「未知を、価値に」する取り組み

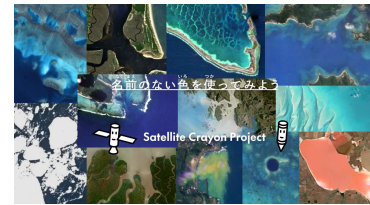
海のクレヨン・山のクレヨン (Satellite Crayon Project)

宇宙から撮影した、衛星写真にうつる実際の地球の「色」から作ったクレヨンを販売しています。

——「海って青だけじゃないんだ！」
「この山はどこなんだろう？」

クレヨンを手に取る人が、地球の色の豊かさ知り、思うがままに楽しみ、地球に興味を持ってほしい。そんな社員の想いがこもった一品です。

売り上げの一部は、キリバス共和国やトンガ王国に寄付し、自然災害基金や復興支援金として活用して頂きます。



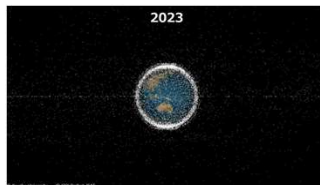
レーザーを使って宇宙ごみを取り除く

近年、これまで打ち上げられて使われなくなった人工衛星、ロケットの部品等の“宇宙ごみ”が問題になっています。運用中の衛星に宇宙ごみが衝突した場合、そのミッションを終了させるようなダメージを与えるなど、宇宙ごみの増加は宇宙環境の悪化につながります。

これに対して、2024年1月に設立されたスカパーJSAT発スタートアップ「株式会社Orbital Lasers」では、レーザーを使う方式によりスペースデブリ（不用衛星等の宇宙ごみ）を除去する事業を開始しました。



宇宙空間に浮かぶ大量のスペースデブリ



スカパーJSAT株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1
赤坂インターシティAIR

お問い合わせフォーム

